



土砂災害に関する情報提供等について

令和6年2月

奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

【土砂災害に関する最新の防災情報】<国土交通省砂防部より>



令和5年の土砂災害について(概要)

○ 令和5年の土砂災害発生件数の速報値が令和6年1月18日に公表されました。

<令和5年の土砂災害>

- ・42道府県で1,471件の土砂災害が発生し、死者8名、人家被害262戸の被害が生じた。
- ・6月29日から梅雨前線により各地で大雨となり、22県で397件の土砂災害が発生。7月1日から12までに9県で線状降水帯が発生し、全数の8割にあたる322県の土砂災害が発生した。
- ・台風第13号では全数の8割以上の257件の土砂災害が千葉県で発生した。これは単一の台風、単一の県で発生した件数として歴代1位であった。

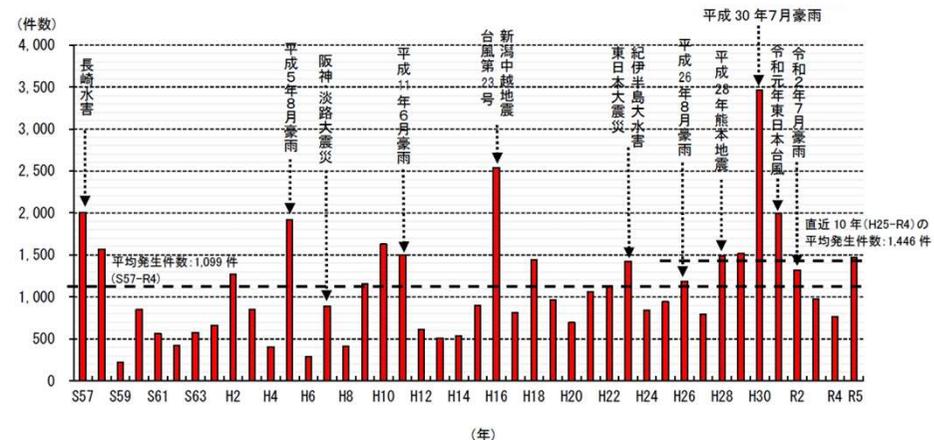


図. 土砂災害発生件数の推移 (S57~R5)

※令和6年1月18日付け国交省報道発表資料より

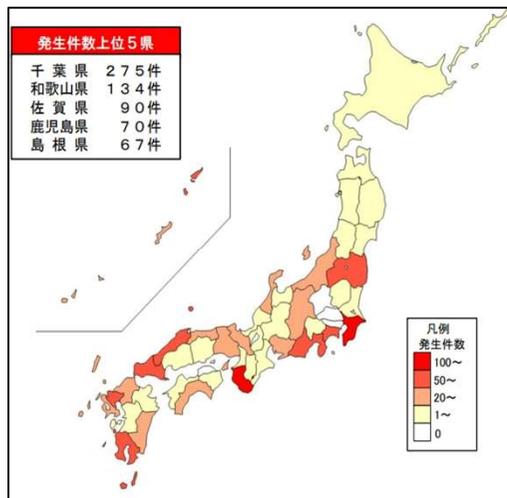
土砂災害発生件数

1,471件

〔 土石流等 : 125件
地すべり : 57件
がけ崩れ : 1,289件 〕

【被害状況】

人的被害：死者	8名
負傷者	19名
家屋被害：全壊	30戸
半壊	21戸
一部損壊	211戸



【土砂災害に関する防災情報】 <国土交通省砂防部より> 土砂災害警戒避難の好事例について(令和4年8月豪雨)

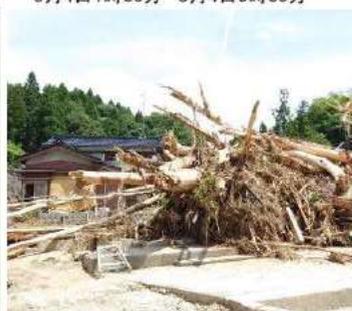
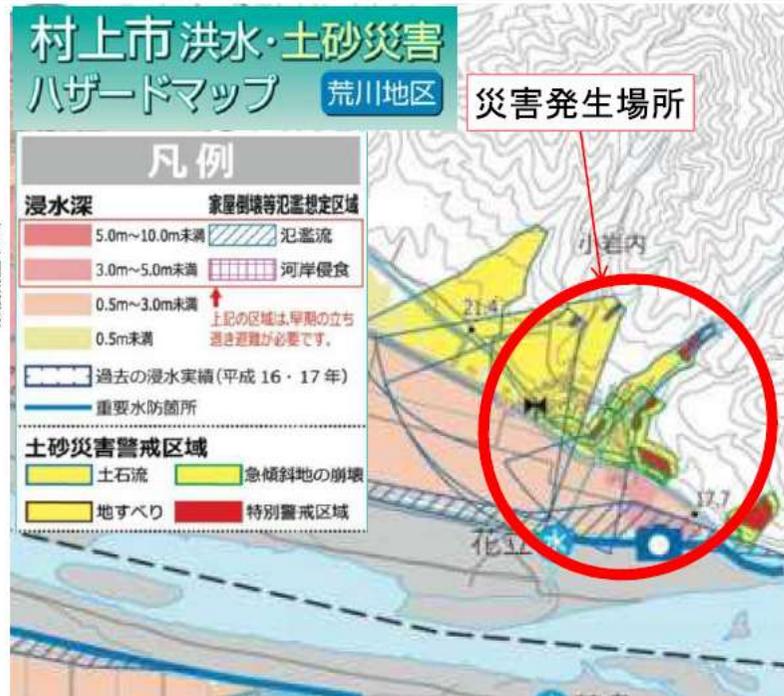
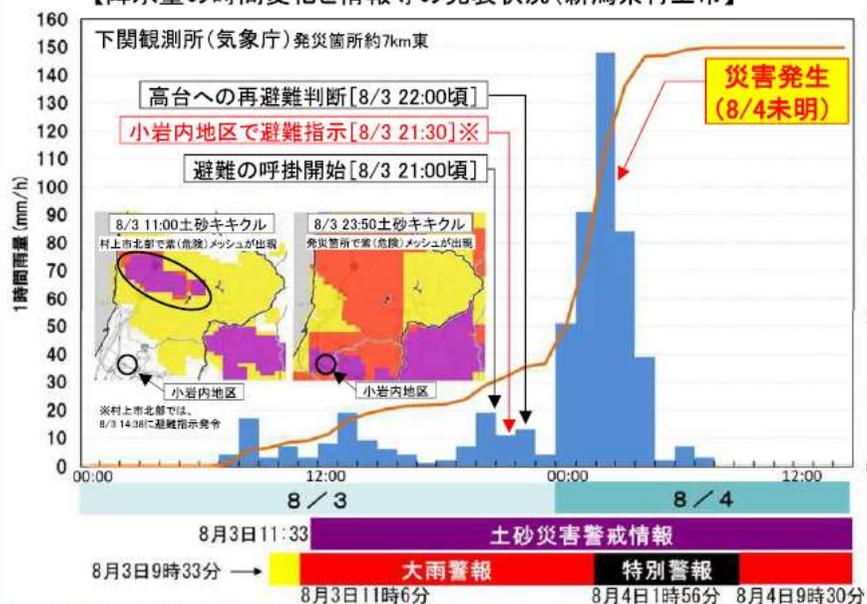


令和4年8月
避難事例

過去の水害教訓、避難の呼び掛けにより被害を逃れた事例(新潟県村上市小岩内地区) こいわうち

- 令和4年8月3日からの大雨において、新潟県村上市小岩内地区では、複数の住宅が巻き込まれる土石流災害が発生。
- 地区役員が3日21時頃、住宅を1軒ずつ回り、避難を呼び掛けた。一度は地区の公会堂に避難したが、昭和42年羽越水害を教訓とし、高台に位置する住宅等へ「再避難」を実施し、犠牲者はいなかった。

【降水量の時間変化と情報等の発表状況(新潟県村上市)



人的被害：負傷者1名

【区長コメント】

- いち早く高台に再避難できたのは、55年前の大水害(羽越水害)の経験が大きい。(公会堂は羽越水害でも被害に遭った場所だった)
- 空振りでもいいと開き直り、住民たちに再避難を呼び掛けた。

【奈良県における土砂災害防止に向けた取り組み】

県内の学校における土砂災害防止に関する出前講座

- ・奈良県砂防・災害対策課では、各市町村教育委員会を通じて県内の学校へ土砂災害防止に関する出前講座を募集しており、令和5年度は小・中学校（5校）および特別支援学校（県立盲・ろう学校）で実施。
- ・令和4年度に引き続き、県土木職員のOB団体「奈良県砂防ボランティア協会」と連携し、宇陀市室生の「室生地すべり見楽館」等にて合同講座を実施。地すべり見楽館では前半で砂防・災害対策課職員から土砂災害の概要や土砂災害警戒区域の確認方法の解説を行い、後半は砂防ボランティア協会員が見楽館のジオラマや屋外の抑止杭、集水井等の施設解説を行った。

<主な講座内容>

- ・奈良県の特徴とこれまでに起こった災害（大和川大水害、紀伊半島大水害）
- ・土砂災害の種類について ・表層崩壊と深層崩壊について（模型実演）
- ・付近の土砂災害警戒区域の確認、気象情報の意味合いを解説



<出前講座の様様>

<砂防ボランティア協会との合同講座>



【奈良県における土砂災害防止に向けた取り組み】

土砂災害パネル展 ～土砂災害から身を守るために～

- 奈良県砂防・災害対策課では、主に6月の土砂災害防止月間やその後の出水期に、県内各地で「土砂災害パネル展」を実施。令和5年度は県内のイオンモールや十津川村文化祭、防災訓練など、計8箇所においてパネル展および模型実演を実施。
- 各パネル展は国土交通省紀伊山系砂防事務所と共催したほか、それぞれのパネル展において個別に京都府や奈良地方気象台、奈良県警察、地元市町村のパネルを展示し、総合的な展示になるように取り組んだ。
- 昨年度に引き続き、土砂災害警戒区域を確認できるブースを設置し、自宅付近の土砂災害警戒区域を確認していただいた。
- 来年度は新しいデジタルコンテンツを使用し、さらに来場者の理解が深まるような展示ができるように努めていく。

